日本遺産

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」

関西７市町などが追加認定

文化庁の日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に、2017年４月に認定された11市町に加え、このほど関西７市町（宮津市、大阪市、神戸市、洲本市、赤穂市、高砂市、新温泉町）を含む全国27市町が追加認定され計38市町となった。去る６月６日、大阪市内において、その関西の７市町が主催する共同記者会見が行われた。

文化庁が日本遺産に認定している「北前船寄港地」は、「日本海沿岸に点在する港町には広大な商家や豪壮な船主屋敷、社寺に奉納された船の絵馬などが残り、節回しの似た民謡が唄われている。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやまない」というもの。

会見では七つの寄港地のゆかりや見どころ、それらの連携強化や交流拡大、さらなる認知度向上への取り組みが紹介された。

関西・大阪21世紀協会は2015年７月、民が支える公共的文化活動の推進役として「北前船寄港地フォーラムin大阪」の実行委員会事務局を務めた。その際、2007年に同フォーラムが開催されて初めて、それまでの開催地関係者一同が大阪に集結。日本遺産認定に向けた機運を盛り上げたことも、この度の認定を後押しする形となった。

共同記者会見に出席した各市町の幹部。向かって左から、浜田健一郎氏（一般社団法人 北前船交流拡大機構理事長）、上田清和氏（宮津市副市長）、田中清剛氏（大阪市副市長）、岡口憲義氏（神戸市副市長）、児嶋佳文氏（赤穂市副市長）、大内治氏（高砂市副市長）、上崎勝規氏（洲本市副市長）、田中孝幸氏（新温泉町副町長）

日本遺産とは

地域に点在する有形・無形の文化財を対象に、文化庁が2015年度から「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー」として認定し活用する制度。

京都府
宮津市

寄港地
宮津（みやづ）

元結屋（三上家）という廻船業で財をなした船主や、廻船や北前船の船頭をとくに由良地区から多く輩出。旧三上家住宅（重文）や船頭衆の信仰を集めた「由良金毘羅神社」がある。日本三景の「天橋立」は観光名所。

大阪府
大阪市

寄港地
大坂（おおさか）

北前船の起終点。「天下の台所」（諸国物産の集散地機能）と呼ばれた。また、北海道から運ばれた昆布を用いて出汁文化が花開いた。住吉大社境内には、北前船ゆかりの廻船業者が奉納した600基あまりの石灯籠が立ち並ぶ。

兵庫県
神戸市

寄港地
兵庫津（ひょうごのつ）

古来、瀬戸内海水運の中核港で豪商・北風家や高田屋嘉兵衛らが活躍。高田屋嘉兵衛本店跡地の石碑や献上灯籠、北風荘右衛門らが造営した地蔵、帆布を発明した工楽松右衛門の墓など当時の偉人らの足跡がたどれる。

兵庫県
洲本市

寄港地
都志（つし）

都志浦は江戸時代に海運業者が多数を占めた集落で、高田屋嘉兵衛の生誕地。船主らが信仰した都志八幡神社や嘉兵衛ゆかりの地など往時の町並みをしのぶことができる。高田屋顕彰館は北前船関連の資料を多数展示。

兵庫県
赤穂市

寄港地
坂越（さこし）

古くから廻船業で繁栄。近世は西廻り航路の寄港地、塩廻船の船主集落として隆盛。海に向かう道路沿いに船主邸宅・寺院・浦会所が軒を連ねる町並み、大避神社の奉納物や船祭は廻船業とともに歩んだ歴史を伝える。

兵庫県
高砂市

寄港地
高砂（たかさご）

西廻り航路で活躍した船主の拠点でもあった。帆布「松右衛門帆」を開発した工楽松右衛門の旧宅、謡曲『高砂』の発祥地で、縁結びで有名な高砂神社、兵庫県歴史的景観形成地区に選ばれている高砂町の町並みなどがある。

兵庫県
新温泉町

寄港地
諸寄（もろよせ）

北前船による繁栄と幸せをもたらす「麒麟のまち」として今に伝わる。歌人前田純孝ら文化人や画家を輩出。枕草子、古今六帖に詠まれた名勝「雪の白浜」、廻船問屋群、為世永神社、食文化「あごちくわ」などがある。